

北海道浮魚ニュース

令和2(2020)年度 18号

2020年9月16日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

令和2年オホーツク海サンマ漁況見通し発表される

北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場と網走水産試験場が協議を行い、9月16日に「2020年(令和2年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容をお知らせします。

【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 極めて少ない
- ② 来遊時期 : オホーツク海沿岸への来遊は9月上旬～中旬以降
ただし、今年はさらにずれ込む

1. オホーツク海へのサンマの来遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は29cm未満の0歳魚が主体で、この群は7月下旬～8月下旬に北方四島の太平洋側から移入するものと考えられています。オホーツク海に来遊したサンマは、8月～9月にはオホーツク海の中南部海域に広く分布しますが、9月以降の水温低下に伴い、宗谷暖流域の比較的水温の高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動して漁獲されます。したがって、7月～8月に北方四島沖太平洋に0歳魚のサンマの分布量が多く、さらに、北方四島周辺の表面水温が好適(10℃以上)であれば、太平洋からオホーツク海への来遊資源量は多くなると考えられます。

2. 昨年(2019年)の漁況

2019年は、オホーツク海沿岸からの出漁はありませんでした。10月中旬に太平洋からオホーツク海へさんま棒受網漁船が回航し、羅臼沖で操業しましたが、オホーツク海沿岸への水揚げはありませんでした。

3. 2020年の来遊量および来遊条件

・8月の太平洋における29cm未満魚の分布量

オホーツク海に来遊する資源水準の指標として、8月の太平洋(千島～道東海域)におけるさんま棒受網漁業の29cm未満魚の漁獲尾数を用いました。その結果、2020年は0尾と算出されました(図1)。これは当該海域に漁場が形成されず、公海での操業が続いたためです。この背景には、当該海域でのサンマの分布が極めて少なかったことが考えられます。

したがって、オホーツク海における来遊資源量は低水準が続いている近年の中でも極めて少ないと考えられます。

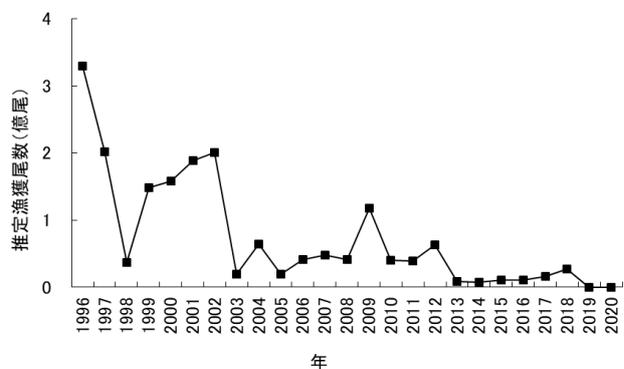


図1 太平洋における29cm未満のサンマの推定漁獲尾数

・オホーツク海へ来遊する海況条件

7月下旬～8月下旬の北方四島周辺における表面水温が高い（10℃以上）年は、サンマがオホーツク海へ来遊する好適条件です。今年の7月下旬～8月下旬の北方四島海域の表面は、全域にわたって10℃以上の水温帯に覆われていました。したがって、太平洋からオホーツク海へ来遊する海況条件は、好適であったと考えられます。

4. オホーツク海沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、水温が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向にあります（図2）。一方、17℃未満の年では明瞭な関係は見られないものの、9月下旬～10月中旬に初漁日を迎える場合が多くなっています。

今年の週間平均表面水温の最高値は8月第4週の17.0℃でした（図2）。この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、初漁日は9月上旬～中旬になると考えられます。しかし、今年のさんま棒受網漁場は公海です。さらに、9月3日～9月9日に釧路水試が道東太平洋で実施した流し網調査（浮魚ニュース第17号）でサンマの漁獲はありませんでした。したがって、9月上旬まで日本近海へのサンマの来遊が見られないことから、オホーツク海沿岸への来遊時期は9月中旬よりも遅い時期にずれ込むと考えられます。

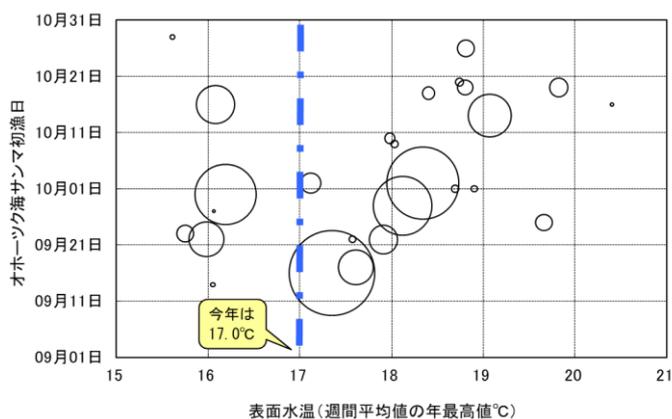


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係

表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域の平均値
図中の丸は年間漁獲量を相対的に示し、最も大きい丸は約2万トン

5. その他

オホーツク海のサンマの漁獲量は、来遊資源量が十分な場合、太平洋から回航するさんま棒受網漁船の延べ操業隻数に左右されます。漁船は9月中旬・下旬の太平洋（千島～道東海域）の漁況が良ければ太平洋での操業を続け、逆に悪ければオホーツク海へ回航して操業する傾向にあります。

しかし、2014年以降は9月中旬・下旬の太平洋の漁況が悪くても、漁船がオホーツク海へ回航しない（回航したとしても羅臼沖まで）年が多くなりました。これは、オホーツク海での漁獲が見込まれないため太平洋の漁況が悪くても、太平洋での操業を続けていたためと考えられます。

今年のオホーツク海への来遊資源量は極めて少ないと予想されることから、太平洋から回航する漁船は少ないと考えられます。

まとめ

今年（今年）はオホーツク海へ回遊する海況条件は好適であったものの、太平洋（千島～道東海域）における8月末までの29cm未満のサンマの推定漁獲尾数が0と算出されることから、オホーツク海への来遊量は極めて少ないと予想されます。また、沿岸への来遊時期は過去の傾向から9月上旬～中旬と予測されますが、さんま棒受網の漁況および道東太平洋での調査船調査の結果を考慮すると、それ以降にずれ込むと考えられます。

（釧路水産試験場調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225）